

【質問の観点】

(1) 事業の実績 (2) 事業の効果 (3) 事業の継続性 (4) 事業の発展性 (5) 事業の安定性 (6) 補助団体の継続性 (7) 補助団体の安定性

質問	団体からの回答
コロナ禍の子育て支援、新たな課題がたくさんあると思うが、一番大変だと感じたのは何ですか？	春の緊急事態宣言をきっかけに顔を見ない親子が気にかかった。SNS発信、オンライン講座などの工夫はしたが、開所後、人が集まる場に積極的に誘うのは難しく、アプローチ方法に悩む。閉所時期が春だったこともあり、初めての出産、育児でストレスがかかっているけれど外に出るのが心配な方、転勤などで来て周辺に知り合いがいない方などに手が届きにくいと感じた。来所を、夫や親に反対されるという例もある。
発達に不安がある子とその保護者の定期プログラムというのは、個別の相談から専門につないだものですか？いずみの事業として取り組んだものなのですか？	いずみの事業。いずみのひろばの方針として、発達に不安がある子どもとその親がひろばに遊びに来るのを迎え入れ、少し大変なところはみんなで支えていく、インクルーシブなひろばでありたいという思いがあり、それには、不安のある親子と、そうでない親子にお互いを知ってもらい相互理解の場が必要だと考えた。保育室を使い、定期的に行おうとしていたがコロナのためできず、「花ちゃんとママ」のおはなし会・茂木厚子先生の講座・オンラインひろばというやり方に変えた。
コロナ禍においても、各事業において様々な工夫をして、できる取り組みを実施していますが、ひろば事業、一時預かり事業、小規模保育事業、それぞれの事業における、利用者の反応や声(意見)は、具体的にどのようなものがあったか。	ひろば事業●閉所時期：公園に向けた「いずみのハト時計」に助けられた。いきなり日常がストップして、誰にも会えなくなったが、11時に公園に行くということが生活のリズムになった。 開所後：待っていた。人と話したかった。夫がリモート会議。家にいられないので助かる。しっかり換気・消毒してくれる安心感がある。ベビーマッサージ、助産師計測、コンサート、その他プログラムを再開→中止されることが多い中、縮小されたり制限があったりしても、やってくれるだけで嬉しいしホッとする。  一時預かり事業●兄弟の習い事や病院など、幼い子どもを連れていけない。感染対策をしっかりしてくれている一時預かりは助かる。人数を減らしているため予約が取りづらい。  小規模保育事業●感染症対策についてのアンケートを行ったが、全保護者から「よい」との評価をもらえた。 ひろばとの動線を分けるために、公園を通る不便さはあったが、感染リスクを考えると有効なので続けてよい。 感染者が出た時に、感染者が保育者なのか園児なのか同居家族なのかなど判断材料があると助かる。濃厚接触者に特定されたのだが、保育園と保健所が連携が取れていたようで、対応がスムーズでよかった。
コロナ感染予防対策として、行政から補助金を支出しているが、具体的にどのように活用したか。また今後必要と思われるものはなにか。	アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの消毒用品、非接触型体温計、ペーパータオル、加湿器、空気清浄機その他、対策グッズを揃えた。  消毒をするための時間、スタッフを確保した。  今後は消耗品が引き続き必要。消毒のための人件費が必要。
小規模保育事業について、現在のB型からA型に移行という記載があるが、現在の状況はどうなっているか。	新規採用者2名のうち、1名が辞退となったため、来年度はA型移行ができない。来年度にも常勤保育士を募集して、再来年度にA型に移行したい。